(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報　第９５号(2022. 12. 11-2022. 12. 18)

◆　参加者:みさきゆう、雪の空SOSA、M*A*S*H、しまねこくん、宮坂変哲、mugwort、syusyu、太代祐一、西脇祥貴、かのん、水の眠り、小松百合華、元さん、岡村知昭、しろとも、海馬、菊池洋勝、たろりずむ、鴨川ねぎ、抹茶金魚、おかもとかも、流天紳音(るてしお)、花野玖、黒穂十、森内詩紋、Ryu_sen、徳道かづみ、さー、む～みんママ、茶熊さえこ、ね、石川聡、霧雨魔理沙、まつりぺきん、電車侍、日月星香、星野響、桔梗菫、天やん、石原とつき、藤井皐、ESG、雪上牡丹餅、あ、えのぎさん、日下昊、のこりか庵、ゆりのはなこ、西沢葉火、土竜（もぐら）、雷（らい）、hyuutoppa、弌定住佳、蔭一郎、とわさき芽ぐみ、野々原 蝶子、蜜、Kaorin、金瀬達雄、千春、月硝子、雲上晴也、とるばどーる、風池陽一、涼閑、ぽっぽ　水須ゆき子、najmi、みや　水也、輪井ゆう、ばさ、tomokoenokida、冬憑(ふゆつき)、上峰子、直美、夏野ネコ、Moon、あこせみ、あらぴぃ、おけー、楢崎進弘、月波与生(八一名)

◆　７・７詩、５・７・５詩

真ん中にひよこ浮かべるおでん鍋　しまねこくん
ボーナスの記帳は次の頁かな　菊池洋勝
絨毯から降りぬ未婚の40代　syusyu
換喩と読めばへびいちごパフェ　海馬
負けまいとすればするほどブロッコリー　しまねこくん
葱の白さのいつかどこかの鎖骨　石原とつき
鳴りたての鈴に似ている星を呼ぶ　とわさき芽ぐみ
重ね着の下ノーパンのアカウント　菊池洋勝
字が書けるようになったら鳴いてみろ　西沢葉火
干し柿を許そう事なきを得よう　藤井皐

青塗りの表札ここも道らしい　西脇祥貴
鱈汁やわが椀に避けよ目ん玉　syusyu
ちょうど良い化石を火打ち石にする　雪上牡丹餅
レッセフェール、レッセフェールと筆使い　海馬
誕生日それはロケットえんぴつね　おかもとかも
回覧板で往復ビンタ　太代祐一
討論会のきらきら星変奏曲　Ryu_sen
夏場だけフラペチーノが湧く泉　おかもとかも
しまうまは素数を食べて育ちます　岡村知昭
湯を沸かす夜が溢れてこないよう　千春

冬将軍どうする？地球温暖化　M*A*S*H
パトラッシュ聖者の足下に眠る　宮坂変哲
「トイザらズキッズ」子が熱唱すクリスマス　mugwort
初恋をハッシュタグにして閉じる　太代祐一
焦点を　結べる先に　時雨降る　かのん
どこにでもありそうな嘘に赤を塗る　しろとも
ニージュラの枕詞はグローリア　たろりずむ
報われぬ　人魚の肉を喰った故　鴨川ねぎ
ドミノを始めるのも止めるのも猫　抹茶金魚
初春やオウム返しの年賀書き　流天
覚束ぬ男結びや日短　花野玖
憲法が先か平和が先なのか　黒穂＋
縹渺の夕闇をゆくイェニチェリ　森内詩紋
勇敢な臆病者として生きる　徳道かづみ
ひとしれず抱えるものをひとりきり　茶熊さえこ
指先で探すの　今夜のぬくもりを　ね
ガサガサに引っ掻かれた高層階のガラス　石川聡
久々に　シール作りを　しようかな　霧雨魔理沙
Round2　都道府県で討ち入りを　まつりぺきん
遠景の　山透かしけり　冬木立　電車侍

冬支度慌てて探すストールを　日月星香
罫線にさよなら告げて冬の虹　星野響
冬将軍子等の声に笑んでみる　黎明
墓の底から見つめる目はあたし、子の背　天やん
ふるはせてなくためのむね冬薔薇　EGG
下戸だから燗のかげんは書けません あ
買い忘れた賀状に挫ける発売日　日下臭
鴉にも喰はれず皆で木守柿　のこりか庵
北国のトリセツ読めば凍死あり　ゆりのはなこ
吹きすさぶ風のごとくか胸の内　土竜
グランドと名に付く廃ホテルのあばら　雷
冬の夜のたぬきうどんの灯かな　hyuutoppa
憐れみはつまらぬ人の夢見草　弐定住佳
テレビの裏でぼた餅を食む　金瀬達雄
裏声で窓震わせる冬将軍　月硝子
北風や信号待ちはツーステップ　雲上晴也
ストウブの灯り真白い背な照らし　とるばどーる
苦いめの塩を精製、涙から　涼閑
冬竹を齧るリンリンを齧る　najimi
白い雪の溶け染みた土の黒さ　輪井ゆう
交差点枯野原にも夕日さす　tomokoenokida
孤独の夜胸を切り裂く冬の刻　冬憑
ここは水中きっと水中　上峰子
犬山城小さくなりて不如帰　あこせみ
ベジタリアンとする重力のはなし　月波与生

◆　7・7、5・7・5以外の短詩

目を瞑る見えないとこを探るとき例えばポッケ例えば
kiss　みさきゆう

聞いてないことにしてって穴ぼこじゃないから私ここにいるから　みさきゆう

帰り道めんどくさっと独り言黒いさくら猫うにゃっと鳴いた　みさきゆう
あの人は背中に刺青があってそれは駅から家までの地図　蔭一郎、
枯れていくサボテンに遣る水の粒きらわれてると多分知ってた　夏野ネコ

滲んでる冷たいスマホの君の名を震える指が着信拒否す　雪の空SOnA
めくるめく梨が林檎になる季節ゆっくりだって待っているから　水の眠り
羊水の海に沈んで眠るよう生きていくのはこんなに苦しい　小松百合華
月が消えまた現れてまた消える雲の演出たどって見つめ　元さん
青空にチャルチャルチャルとバスが来てまた雪降るねと学　校へ行く　さー
稚拙さを四六時中垂れ流す自覚なき者立ち去るがいい　えのきさん
10 年の歳月を経て逢う君が言う「禁煙で！」やめてた煙　Kaorin
講堂の掃除はロボに移行して上位職としての落ち葉掃き　さー
幼くも姉妹でしてる半分こに三個パックのヨーグルト編　風池陽一
猫ふたつ布団を上げて転がせばうにゃんふにゃんと文句を　言へり　ぽっぽ

誰かまで届かないでよ見ないでよ叫ぶ声など聞きもしないで　みや

硝子戸の向かふに見えし影さへも砕けた時に心留めて　ぱさ

過ぎし日のおのが天職顧みる知らずと続く父からの血か　直美

君想い摘まず眺むる白花は清けき人の涙にも似て　Moon

◆　詩

そうね
この世では結ばれぬ人
前世で兄弟来世いでまた友人
ずーと同じ故郷で笑っていたいね　（む～みんママ）

コンビニで
買った愛を抱きしめて
貴方は珈琲
私はみるく珈琲　（蜜）

◆作品評から

マフラーを巻いた残りが顔らしい　しまねこくん

～「あなたの顔を覚えられなくて」と言われると言われた方が「特徴の無い顔でスマン」などと自傷してしまうが、「そんなバカとは付き合いをやめなさい」が正しい選択。（月波与生）

パラレルパ ラレルパラレル パラレルパ 世界は廻るねじれて廻る　みさきゆう

～パラレルを繰り返すとだんだんバブリング音にも聴こえてくる。並行するたくさんの「イフ」がある世界。（月波与生）

帰り道めんどくさっと独り言黒いさくら猫うにゃっと鳴いた　みさきゆう

～この歌好きだなぁ、「うにゃ」が良きね（あらぴぃ）

聞いてないことにしてって穴ぼこじゃないから私ここにいるから　みさきゆう

～時として、愚痴や悪口は聞いてくれる人に圧力をかける行為になる。鬱憤への賛同を求められると苦しくなる。黙っててよー?って言われると「ゴミ箱じゃあないよ、私は」と……（森内詩紋）

洗ったらおでんと分からない竹輪　しまねこくん

～おでんが美味しい季節になりました。家（青森）ではおでんに竹輪麸を入れる習慣がなく長い間竹輪と竹輪麸は同じものと思ってました。「洗ったら」が面白いですね。（月波与生）

卵とじにされる覚悟があります少しの熱で固まりきらない夜間戦闘

～いろんな覚悟があるものだが卵とじにされる覚悟はなかった。覚悟と勇気、世界は（だいたい）この二つから成り立っている。（月波与生）

10 年の歳月を経て逢う君が言う「禁煙で！」やめてた煙　Kaorin

～久方ぶりの再会。

昔は煙草吸っても何も言わなかったのに、今は禁煙と言われてしまった。時の流れとお互いの状況の移り変わりを感

じる一句。（おけー）

テレビの裏でぼた餅を食む　金瀬達雄
　～こちらのほうがリアリティーがあって良いと思います。しかも面白いし。（楢崎進弘）

アドヴェント抽斗に小さな星座　星野響
　～アドヴェントも少し前までは知らない人も多かったが今やニトリでもカレンダーを売ってるくらい定着した。「抽斗から星座」がダイナミックなので「小さな」は饒舌かもしれない。（月波与生）

ＨＢとＨを使う彼女からもらった先の尖った２Ｂ　風池陽一
　～いらないからくれたのかためを思ってくれたのか。「先の尖った２Ｂ」が二人の関係性を表しているような。（月波与生）

ドンキでは買えないほうの月明かり　とわさき芽ぐみ
　～ドンキへでは買い物ではなく買えないものを確かめに行っているのだろうか。買うものが減ると身の回りが穏やかになり時間が増えていく。（月波与生）